

法人会員との懇談会報告

H23～24年度社会連携委員長 中井 里史

平成24年12月14日（金）に東海大学高輪キャンパス1号館2階会議室において、社会連携委員会の主催で法人会員との懇談会を行った。この懇談会の開催の意図は、室内環境学会がどのようにすれば何らかの具体的な形で社会に対して還元をすることができるかを考える手がかりを探るため、また積極的に学会運営に参画していただくことをも目指して、法人会員の方々からいろいろなご意見を頂く機会をつくることにあった。必ずしも多くの参加者があったわけではなかったが、様々なまた貴重な発言をしていただき、有意義な意見交換ができたと考えている。

懇談会は、平成23年末に実施した法人会員へのアンケート調査結果を簡単に紹介した後に、フリートーキングでおこなった。以下に、法人会員からに限らず、懇談会の中で話題として挙げられた事項を箇条書きの形で整理する。

- 学会に対しての要望事項等があるかどうかを聞く場ではあるが、逆に学会と法人会員がWin-Winの関係になるように、学会から依頼できるような事項があるのか。
- 室内環境学会が大きくなっていかないのは、アピール等不足では。どのように学会外にアピールしていくのがよいのかを考える必要あり。
- 学会として事業展開することが求められてきているが、学会として事業展開するため、あるいは学会外からの様々な依頼に対応できるシステムを作る必要がある。現状では個別対応に終始しているだけ。法人会員にお手伝いをお願いすることは可能であるのか。なお、学会として種々の事業展開ができるようなシステムができるのは、NPO法人の立場としては質問や調査などの依頼がしやすくなるのでありがたい。
- 事業展開するにあたっては、学会員がどの程度の意識・意向を持っているのかを把握する必要もある。また、何らかの評価基準や共通の評価軸を持たないと、学会としての評価はできない。
- 研究者の立場からすると、共同研究のような形でも何でも構わないので、測定器や調査方法など、各種評価を行うためのフィールド調査の提供・紹介などに法人会員に協力いただけるとありがたい。
- 現行定められている環境基準や指針等は、次の段階でどのようにすればよいのか、今後はどのような対応等が必要となってくるのか、といったような議論も必要。
- 法人会員の多くが、情報収集を期待して学会員となっている。室内に関する情報が他ではあまり得られないことがその理由の一つ。
- 室内環境学会にはいろいろな領域の研究者がいることが特徴で、多分野の方と一度に議論できることが魅力の一つ。一方で、専門性が散らばっていることから、何をやっているのかがわかりにくい。多分野にわたるといことが、学会の強みではなく逆に弱みになってしまっている可能性ありとの指摘。学会の独自性や特殊性をもっとアピールし、いかに利点であることに持って行くかが課題。
- 短期的視点にのみ基づいた研究発表が多く認められる傾向もある。全てのものには利点ばかりではなく悪い点もある、あるいはその逆もあるが、これらの点は無視されている。また健康影響などは長期的また多くの研究領域から検討が必要となる。多面的、また長期的視野に基づく研究等を行う必要性あり。そのために、共同研究の設立やコーディネータの設置等が望まれる。
- 研究結果の情報発信等はできるだけ具体的に行う必要がある。
- 学会がやっていること、また目指していることを一般の方は知らない。実際には多くのことをやっていたとしても、領域などをある程度焦点を絞ってアピールすることも必要。「何でもOK」というよりも、「この件は任せてください」といったようなスタイルで情報等を発信することがまず重要。
- 一般の方にとっては、「室内環境」という名称が堅苦しいのでは。

- 学会HPへのアクセス数は非常に多い。会員増強また学会活動のアピールのため、この点を利用することを考えた方がよい。興味をもってもらい、より学会に近づいてもらえるような構造にしていくべきでは。またHPでどのように情報発信していくかについても検討する必要あり。
- 学術大会時に、もっと市民参加型の行事等があってもよいのでは。研究者が実際の室内環境で何が起きているのか、何が問題となっているのか、といった声を一般の方から聞くことも大事。

懇談会ではアルコールを含む飲み物とお菓子を用意し、飲食しながら、なごやかな雰囲気の中で話を進めることができた。当初の目的であった社会連携のあり方、という観点だけにとどまらず学会に関する意見が法人会員だけでなく会員からも提起された。しかし、今回は上記のようにいろいろな課題や要望等の提起で終わったといってよい。何らかの合意形成や提言を行うまでには、まだもう少し意見交換が必要であると考えられる。しかし、機会があれば、意見交換の良い機会となる懇談会をまた開催したいということでは意見が一致した。時間と場所に余裕があれば、毎年の学術大会時の予定に組み込むことも考えて行きたい。開催できた場合、収集がつかなくなる恐れがあることも指摘されたが、是非多くの方に参加いただき、率直なご意見を伺いたい。

なお、懇談会時には飲み物の差し入れもいただいた。感謝いたします。次回も是非（笑）。